

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	名古屋大学
整理番号	Ⅱ-2
事 業 名	ASEAN 地域発展のための次世代国際協カリーダー養成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
(コメント) <p>本事業は、グローバル化による経済環境や国際協力活動の変化に対応するため、名古屋大学大学院国際開発研究科が中心となり、開発援助とビジネスの間を繋ぐ視点を備え、ASEAN 地域と我が国双方の経済・法・政治・社会・文化に対する共通理解を備えた次世代国際協カリーダーの養成を目的に実施された事業である。</p> <p>事業展開では、名古屋大学と ASEAN 諸国の 7 大学からなるコンソーシアムの下、英語によるコースワークとフィールドワークやインターンシップを組み合わせたカリキュラムを開発し、相手大学での勉学や実践的学習のほか、日本人学生による派遣先での日本語指導支援や日本の法制度・文化に関する紹介活動を通じて、我が国と ASEAN 諸国の架け橋となる人材育成が行われている。また、UCTS（アジア太平洋大学交流機構単位互換）を利用した成績評価システムを構築した上で単位の相互認定を実施しており、質の保証も確保されている。</p> <p>相手大学や地元企業、国際機関からの評価を取り入れることで客観的な視点からの事業改善に繋げることや、地元企業との連携を強化することでインターンシップをはじめとするプログラムの充実が図られている点も高く評価できる。また、派遣及び受入学生に対する就職支援も手厚く行われており、本事業の日本人修了生が ASEAN 地域で活動する企業等に就職した実績もあるなど、人材育成事業の成果が社会に還元され始めている。今後も継続して地元経済界との連携を拡充していくとともに、交流相手となる ASEAN 諸国の拡大を検討するなど、更なる展開を期待する。</p> <p>一方で、予算規模に比して派遣数と長期受入数が少ないこと、今後は名古屋大学としての独自性についても検討がなされていくことが望まれる。</p> <p>最後に、本事業は国際協カリーダーを養成することを目的としており、将来、多彩な分野を横断的に連携する人材育成は重要であることから、引き続き事業継続のための資金確保に努め、更なる発展に期待する。</p>	